

0.1, 0.05, 0.01, 0.005, 0.001, 0.0005, 各%に変化させた場合, 0.005%以上の濃度では, カビ秤量, 横倒し法とも完全に阻止されていた。布面上のカビ発生については, 加工剤の処理濃度は繊維重量に対しての濃度であるため, 0.1%以上の濃度では, 完全に阻止されていた。これは, Halo-test の結果と一致した。Halo-test では阻止帯のない場合の判定が, 不正確であるが, 秤量および横倒し法では, その判定が正確である。

②B—59 被服の防黴加工に関する研究  
第4報 2, 3の方法を用いた防黴効果  
判定

愛知淑徳短大 ○古田 幸子  
大阪市大 弓削 治

1. 繊維に発生する細菌や糸状菌に対して, その繁殖を防ぎ, 繊維材料の損傷を防ぐため, 市販の衛生加工剤等を用いて, その実用的効果を検討し若干の成果を得た。これら加工剤の防黴効力を判定する方法として, A A T C C の Halo-test が, 一般に用いられているが, 今回はカビの発生量を秤量し, 加工剤の効果を検討, 従来の阻止帯測定による Halo-test との関係を検討した。

2. 市販の衛生加工剤を用いて, 各濃度で処理した木綿, ナイロン布を培地に添付し, 菌を接種して 96 hr. 培養後, 試験布を剝離し, 乾燥後試験布上の菌の重量を測定した。また, 他の方法としては, 特殊試験管内に培地を注入, 横倒し凝固後試験布を添附して菌を試験布の端に移殖し, その繁殖速度を測定した。

3. 加工剤のみの効果判定としては, 濃度を 1.0, 0.5,